

【知事定例記者会見】 5月26日

知事／直近1週間の10万人当たりのコロナウイルス感染者数は19.51人、全国19番目まで下がった。県民の皆様のおかげで、良い方向にいつている。病床の占有率も37.3%と下がってきた。今後もしっかりと対応していく。6月の対策は検討中であり、週末に発表する。

● 大雨災害に備え人命第一で取り組みます

県内では3年連続で「大雨特別警報」が発表され、大きな被害が出ています

北部九州は、異常気象の影響で線状降水帯が発生し、毎年厳しい災害が起きている。今年も警戒を怠らず備えられるよう取り組む。

嘉瀬川流域における月別降水量

黒の点線は、直近10年の平均降雨量。この3年間、毎年1度グラフに山ができています。この集中豪雨に備えなければいけない。

日ごろから災害への備えをしてください!

・自宅の危険度のチェック

ハザードマップで浸水リスクを確認し、避難のシミュレーションをしておくこと。

・避難用品チェック

事前に用意しておくこと。非難時に、持っていくものを選んでいては時間がかかる。

警戒レベル4までに危険な場所から全員避難

避難勧告と避難指示が1つになり、警戒レベル4は避難指示となった。避難先には、避難所、安全な地域の親戚や知人宅、マンションなら屋内の上階、安全なホテルや旅館などがある。県が提携を結んでいる旅館もある。

警戒レベル5の緊急安全確保は、災害が起きている状況と同じ。必ず市町から発令されるとは限らない。まさに災害が起きているということ。レベル4の時点で、自ら行動をとる意識を持ってほしい。

消防防災ヘリ「かちどき」が空から佐賀を守ります

迅速な情報収集・状況把握ができ、危機管理センターで県内の状況が分かるようになった。定期的な山の崩落現場の確認、水難事故の捜索、山岳救助など多方面で活躍している。

コロナ禍における離島の医療体制を支えています

離島の全住民にワクチン接種をする際に防災ヘリが活躍した。島と島、佐賀市内と離島を結

ぶ展開ができるようになった。

ダム・クリークを活用した事前放流による浸水対策

昨年度からダムの事前放流を行い、水位を低くしておく対策をとっている。今年度から佐賀平野全体のクリーク約 1,600km を事前に放流し、降雨に対する容量を確保する。合計 2,800 万 m³、北山ダム 1.3 倍の水量の浸水を防止できる。

新たに佐賀県ため池保全管理サポートセンターを開設

6 月 1 日に開設。農業ため池が多いので、管理者が適正な保全・管理を行うことで、大雨による決壊を未然に防ぎたい。土地改良事業団体連合会に事務局を置き、定期的なパトロール、助言指導、講習会の開催などを行う。

災害は突然起こります。十分に備えておきましょう。

● 身近な医療を提供するための支援体制を作ります

地域の診療所で、医師の高齢化が進んでいます

診療所の医師が高齢化している。診療所が維持できないと身近な医療を受けられない。

本日より「身近な医療支援チーム」を設置!

診療所に医者がいなくなった場合、地元の拠点病院から医師が巡回診療をするシステム。県と市町が連携協定を結び、好生館などの支援病院から地域の拠点病院に医師を派遣して、巡回診療で診療所の機能を維持する。

5 月 31 日、唐津市と連携協定を締結しスタート!

旧肥前町が将来的に無医地区になるおそれがある。唐津市民病院きたはたに医師を派遣し、巡回する診療体制を支援するため、県と唐津市が連携協定を締結する。ほかの地域でも順次検討していく。

暮らしに寄り添う身近な医療を守ります

● 妊娠時から切れ目のない相談支援を行います

フィンランドの出産・子育て支援(ネウボラ)

フィンランドには、妊娠したときからパートナーの保健師がつく。何かあると、その保健師に連絡する。また、定期的な訪問もしてくれる。

日本では、自らさまざまな機関に向くことになる。身近に相談相手がないので不安も大きい。子供が1歳ぐらいになって、急に手厚いサービスになるが、妊娠から出産後1か月の新米ママが悩む時期の支援が薄い。フィンランドのように、いつでも相談できる体制づくりをしたいが、財政力がなかった。

そこで、母親向け相談アプリ「ママリ」の運営企業と協定締結した。このアプリは、出産した人の3人に1人が利用しているそうだ。質問をすると、先輩ママからすぐに返事がくるシステムに注目した。

妊娠・出産・子育てについて切れ目のない相談支援を行います

「ママリ」の利用で、情報交換ができる。さらに、ここからは、佐賀県独自の施策。オンラインで専門職に相談するというコーナーを設けた。これは、子供が1歳になるまでは無料。それでも解決しないときは、実際に保健師につなぎ、訪問支援などを行う。「ママリ」が持っている機能、オンラインの相談機能、市町の保健師への相談の3段階で、佐賀県で子育てをするパパとママを手厚く守っていききたい。

7月1日から、全市町と連携して開始する。母子手帳と一緒に案内チラシを配布し、相談できる場があるという佐賀県からのメッセージをつける。

佐賀県在住限定サービスとして、「ママリ」の有料機能、「ママリプレミアム」を1年間無料で利用できる。これは過去の相談履歴を検索して、限定コンテンツが利用できる機能。今後、市町と連携し、市町からの情報を入手できるような機能も追加していく。佐賀県の子育てし大県を充実させていく。いつもあなたと家族のそばに佐賀県。

● サガマリアージュ 新プロジェクト始動します！

2016年に有田焼創業400年事業、2018年には維新博を開催した。佐賀の食材を佐賀の器で提供し、料理人を呼ぶ事業を行ったところ、佐賀の食材の素晴らしさが話題になった。2020年に、アジアベストレストラン50を予定していたが、コロナ禍でWeb開催となった。

新たなステップとして、「サガマリアージュ」のロゴを作成。これは、食材、器、料理人のコラボレーション。

サガマリアージュ新プロジェクトとは

・サガマリアージュラボ：県内料理人と食材・器・作り手による研究会

第1弾を5月に、有田町 arita huis (アリタハウス) にて実施。それぞれの感性を共有し、磨き上げる研究会を県内各地に広げていきたい。

・USEUM SAGA：人間国宝の器を使った期間限定レストラン

arita huis の増永琉聖さん、abyss (アビス) の目黒浩太郎さんが、佐賀の三右衛門や、井上萬二さん、中島宏さんなど、佐賀の人間国宝の器を使って特別メニューを提供する事業。

・サガマリアージュアカデミー：食のプロフェッショナルによる特別講座

6月開講予定で、武雄市出身の Chez Inno (シェ・イノ) のオーナー古賀純二さんが特別講師。毎回テーマを変え、多角的な視点で職に向き合う姿勢を学ぶ。サガマリアージュは“美食の街”サンセバスチャンを目指していく。

古賀稔彦さんをたたえ、次世代が志を育む場をつくります

古賀稔彦さんの銅像を、サンライズパークに設置する。実行委員会を設立し、官民連携でふるさと納税を活用し、1,500万円以上を集めたい。

SAGA アリーナが、スタジアム・アリーナ 20 選に選定されました!

2年後の春にオープンする。本来は国から発表されるが、コロナ禍で進行が遅れ、県からの発表となった。全国の先進事例として注目されるのでありがたいことであり、期待してほしい。

佐賀トヨタの皆さんが山づくりに取り組みます!

「海の源は森」の想いで、森林の整備をするプロジェクト。その第2弾は、来年合併する西九州トヨタ自動車とネットトヨタ佐賀が、県と山づくり協定を結び 1.26ヘクタールの森林保全活動を行う。

保護者のための県内企業合同説明会の開催

県では高校生の県内就職率向上を目指し「プロジェクト 65+」を推進中。以前の県内就職率は 60%に届かなかった。現在 65%を超えたが、まだ低い。高校生の保護者を対象に、合同説明会を4会場で行う。県内企業の魅力を知ってもらいたい。